

ありかわ内科クリニック (福岡県大野城市)



「ありかわ内科クリニック」は、2019年10月、有川俊二院長が「患者様に寄り添った、誠実で適正な医療の提供を目指して」開院されました。開業と同時にBMLの電子カルテシステム「Qualis（クオリス）」を導入し、その後、業容拡大に伴い「Qualis Cloud（クオリスクラウド）」へ移行して運用されています。有川俊二院長に、システムの運用効果や活用方法、移行時の感想などを伺いました。



入力支援ツールの活用で診療を効率化

BMLの電子カルテ導入の決め手

2019年の開業と同時に、同クリニックではBMLの電子カルテシステム「Qualis」の運用を開始されています。導入のきっかけについて、有川院長はこう振り返ってくださいました。

「勤務医時代から長くお付き合いしている卸業者から『BMLは間違いない』と勧められたのが一番の決め手でした。信頼している方の推薦ですから安心感がありました。また、検査会社製のシステムなので、検査依頼から結果取り込みまでがシームレスで、別途パソコンを用意する必要がないのもメリットに感じました」。

よく使う機能について伺うと、「『お気に入りセル』は非常に便利です。お薬セット、採血セット、注射セット等を作って登録し、クリックだけで入力しています。かかりつけの患者さんには『未来カルテ』を活用しています。薬をあらかじめ入れておき、当日は調整のみ。所見だけをその場で記載すればよいので、効率的に診察できます。未来カルテとセット処方との組み合わせは非常に有効だと思います」と、使い勝手の良さを評価してくださいました。

オンプレミス型からクラウド型への移行

オンプレミス型電子カルテからクラウド型への移行のきっかけは、業容拡大に伴う端末の増設でした。

「開業当初は患者さんもスタッフも少なかったもので、受付1台、診察室1台、処置室に1台の計3台で運用していました。しかし、患者さんが増え、スタッフも増員したことから端末を増やす必要が出てきました。オンプレミス型はクライアント端末が増えるとその分サーバーの増強も必要になります。2022年11月に増設したタイミングで、今後さらに増やしていくならサーバーを増強するよりもクラウドにした方がよいと判断し、営業担当の方と相談して移行を決めました」（有川院長）。

移行後の使用感について伺うと、「切り替えに伴う違和感はほとんどありませんでした。むしろ、オンプレミス型ではサーバーが不具合を起こすと全台が使えなくなることがありますが、クラウド型はそれぞれが独立しているため、どこかの端末に不具合があっても他に影響しないのが大きな利点です。開業以来7年使ってきましたし、このままQualisですずっと使っていきたいと思っています」と、Qualis Cloudへの高い評価と継続利用への意向を示してくださいました。

AIツールの活用でカルテ入力を効率化

同クリニックでは、オンライン資格確認を始め、電子処方箋のスマートフォン認証もいち早く導入し、「国から言われたことはなるべく早くやろう」という姿勢で臨まれています。さらに、WEB予約やWEB問診に加え、Qualis Cloudの端末から操作できるAIのカルテ入力支援機能、Kanata社の「kanaVo」も導入されました。「以前から音声入力ソフト、AmiVoice（アドバンスト・メディア社）を使っていましたが、AIの機能はないかと営業の方に相談したところ、すぐに案内を持ってきてくれ、お試しにも付き合ってくれました。今は両方を活用しており、パソコンを打つことが格段に少なくなりました。患者さんに対する印象も良くなると思います」と院長はおっしゃっています。